

# 「また明日」と笑顔で言いたくなる学校づくり

～優しさと強さ、しなやかさとたくましさを併せもつ生徒の育成～



## 「木遣り踊り町流し」に参加しました

7月22日（土）、5年ぶりに開催された「木遣り踊り町流し」に生徒有志約40名が参加し、太子伝観光祭を盛り上げました。5年ぶりに復活したことで生徒は未経験でしたが、井波木遣りの会の方に教えていただきながら、「よいやーさー、どっこいせ」のかけ声に合わせて、男子は采配、女子は扇子を手に踊りました。これからもふるさと井波を誇りに思い、愛する心を育ててほしいものです。

↓【7月23日 北日本新聞朝刊より】

# 中学生 5年ぶり町流し

## 木遣り踊り勇壮に披露

南砺市井波地域の「いなみ太子伝観光祭」が22日、同地域中心部で始まった。ことは木遣り踊りの町流しに5年ぶりに井波中学校の生徒が参加し、勇壮な踊りを披露した。観光祭は23日まで。  
(金田侑香里)

木遣りは江戸時代、焼失した井波別院瑞泉寺の再建のため、五箇山から材木を運んだ際に歌った唄が起源とされる。

### 井波 太子伝観光祭



5年ぶりに勇壮な木遣り踊りを披露する中学生



る。

町流しは2019年に台風で、20、21年は新型コロナウイルスの影響で中止した。昨年は4年ぶりに実施したが、中学生の参加は見送った。

22日は、踊りを伝承する井波木遣りの会（高桑崇会長）の会員や中学生計150人が参加。「よいやーさー、どっこいせ」の掛け声に合わせて、男性は采配、女性は扇子を手に踊った。

旧加越線井波駅舎を出発し、木彫刻の工房が並ぶ本町通りを経由して瑞泉寺へ向かった。最後は境内で踊りを奉納。井波地域が日本遺産に認定された2018年に同寺にゆかりのある井戸「白浪水」で伐採した献木を初めて引き回した。

観光祭は同寺の伝統行事「太子伝会」に合わせ、市商工会井波支部や井波地域づくり協議会などで行う実行委員会（藤井圭一委員長）が毎年開いている。最終日は、よさこいや氷の彫刻フェスティバルがある。

